

ジェンダー視点からの災害・復興に関する総合的調査研究



千葉悦子、加藤真義、坂本 恵、高橋 準、丹波史紀、橋本摂子(社会・歴史学系)
鈴木裕美子(健康・運動学系)、二瓶由美子(桜の聖母短期大学)

【研究の概要】

「災害とジェンダー」の問題は、国の行動計画の中でも取り上げられているが、具体的な取り組みがほとんど進まないまま、今回の震災を迎えるに到った。未曾有の大災害となった東日本大震災への対応を通して、課題を整理し、情報収集および可能な限りでの対策を試みた。

【課題の整理】

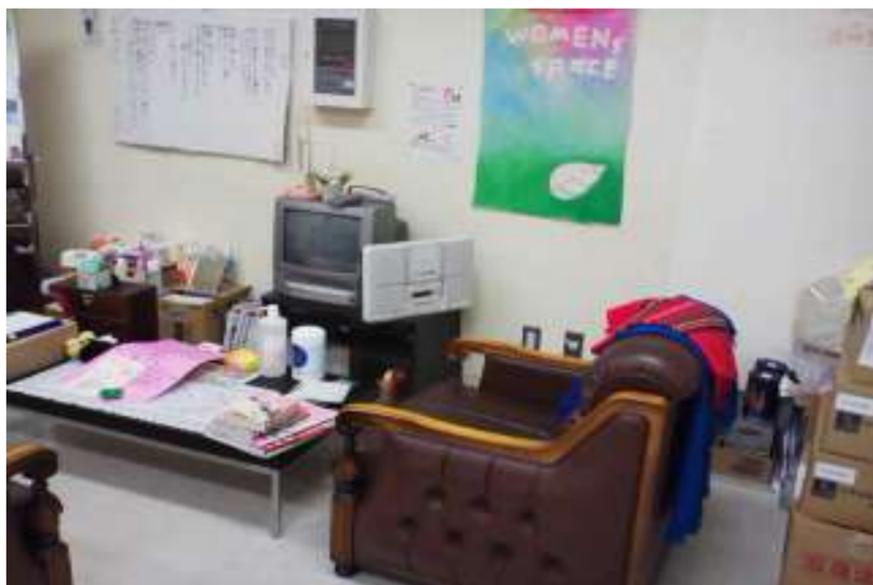
「災害とジェンダー」の問題は、以下のように整理できる。

- (1) 防災計画におけるジェンダー・セクシュアリティに関する視点の組み込み
- (2) 災害発生からその後にいる過程での対応の整備(直接的被害の軽減、避難所生活の適正化、等)
- (3) 復興計画への参画
- (4) 原子力災害をめぐる対応(短期的リスクの検証、避難・災害地域の生活課題、等)
- (5) その他

【研究成果】

研究領域が多岐にわたるため、郡山市ビッグパレット避難所における女性専用スペース(写真)の設置にしばって紹介する。同避難所は県内最大規模の一次避難所の一つであり、ピーク時は1600人程度を収容した。

ここに設けられた女性専用スペースは、5月上旬以降、相談・物品の貸与・憩いのスペース



提供など、多岐にわたる対応を、主に県内3団体のボランティアが中心になって行ってきた。本研究プロジェクトでは、避難所視察、県男女共生センタースタッフからのヒアリング、運営ボランティアの報告会開催を行った。(ほか、要請に応じて物資提供も。)以下に、研究プロジェクトで得た知見を列挙する。

①同スペースは、避難所全体の運営に女性が不在という状況下で、限定的にはあるが、女性固有のニーズを把握し、問題へ対応する機能を担った。②専用スペースでのスタッフの対応は、広範な問題群に対するジェンダー・センシティブな感覚(および知識)が必要とされる。③対応する団体の性格によって、来室者や来室目的が変化する。④他の 이슈、特に今回はキッズスペースとの競合が見られた(幼い子どもを持つ母親が来室できない)。場合によっては複合的な対応をするスペース、ないしは企画が必要になる。※なお本研究にあたっては、運営ボランティアをつとめた小澤かおる氏(首都大学東京大学院博士課程)の多大なるご協力を得た。

【お問い合わせ先】

960-1296 福島市金谷川1 福島大学研究協力課
TEL: 024-548-8009 E-mail: kyoudo@adb.fukushima-u.ac.jp